

で、電力需要にまわる分はむしろに少なくなる。

副次的なメリット

需要全体の中で占める割合はあまり大きくないが有機物のリサイクルを進め環境保全に貢献するという重要な意義を持つており、これから発生する電力や熱は副次的なメリットと考えることができる。

自然エネルギーの利用を推進することは、SDGsの目標7「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続的なエネルギーを確保する」と、目標13「すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靭性および適応力を強化する」にか

なっている。

進まないバイオ発電

SDGSの推進のためには多くの資金と努力が必要である。それを回避するため、問題の存在を軽視し、それぞれの当事国のエゴイズムを発揮する、という行動様式も発生する。

1人あたりのエネルギー消費量、一般廃棄物の排出量、エコロジカル・フットプリントが世界中でも飛び抜けて高いアメリカ合衆国はSDGSに率先して取り組まなくてはならないが、トランプ前大統領はパリ協定離脱（2017年）、ユネスコ脱退（2018年）、WHO離脱（2020年）を決定した。